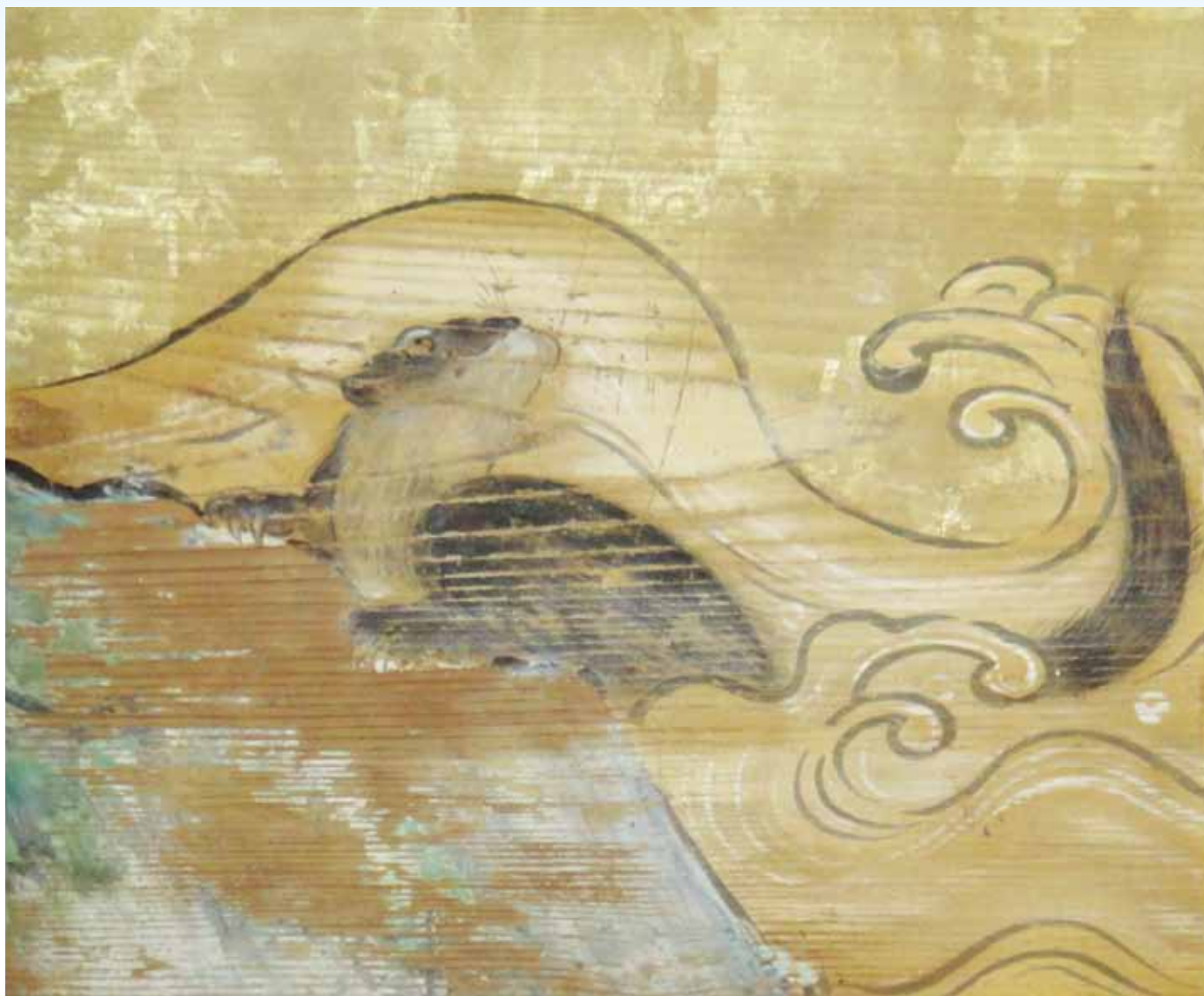


水天化

通巻 第28号



拝殿 格天井の「かわうそ」

ご挨拶

宮司 竹間 宗磨

筑後地方に夏を告げる川渡祭(別称へこかき祭り)ご奉仕の時となりました。

特に還暦・厄年にご霊験あらたかな御神徳に相応しい縁日であります。ご家族ご友人お誘いあわせの上多くの方々のご参拝をお待ち申し上げます。

さて当社では国指定重要文化財の「ご社殿」のお屋根替えをする時期となり奉賛会設立の準備を進めております。

この事業は平成二十七年より三ヶ年計画で工事が実施されます。その間神様には仮の御殿にお遷り戴く仮殿遷座祭が斎行されますが、皆様のご参拝を平常と異なる佇いでお迎え申し上げますこととなりますことをご了承下さい。

ご社殿のお屋根替工事を契機として高良大社II高良山の環境を整備し、信仰のお山としてのみならず、多くの市民を始めとする皆様方に「また登りたい」「もう一度行ってみよう」と安全で四季折々に魅力あるお山となるよう努めてまいり所存ですので、皆様方の御支援ご協力を切にお願い申し上げます。



川渡祭(へこかき祭り)

〔六月一日・二日〕

川渡祭にお参りすると、昔から、高良大神様の御神護を普段に増して授かると伝えられます。茅の輪をくぐり、御祈禱を受け、更なる幸福の縁に結ばれますよう御案内申し上げます。

茅の輪くぐり神事

六月一日・二日の両日、午前七時・十一時・十四時にお抜いを受け、神職と共に茅の輪をくぐり、心身を抜い清めて、無病息災を祈ります。茅の輪は一日の午前七時のくぐり初めより終日、ご自由にくぐる事ができます。



茅の輪くぐり

川渡祭特別祈願

六月中受付
川渡祭には還暦・厄年は元より家内安全・諸願成就の祈願を受付けております。

赤い肌物を身に付けて昇殿いただき、御祈禱を奉仕、特別祈禱札を授与致します。
祈願初穂料 五千元以上

川渡祭特別授与品

六月中限定授与



- 茅の輪守 (上)
- へこかき守 (下)

夏越大祓のご案内

大祓式 〔六月二十日 午後三時〕

平安時代からのわが国の伝統である大祓を受けて、家族そろって無病息災、暑い夏を乗り越えましょう。

大祓とは……

知らず識らずのうちに犯したであろう罪やあやまち、心身のけがれを抜い清めるための神事です。毎年六月と十二月の二回、その月の末日に行います(夏越と年越)。平安時代初期の国家の法制書『延



大祓式

喜式』にも記されており、古くから行われていたことがわかります。ひな祭りの原形とされ、自分の罪けがれを移した「人形(形代)」を神事によってお抜いし、我が身の代わりにお清め致します。当社においても伝統に則り大祓式を厳修致しております。どなたでも参列できます。

お正月の初詣は厄年などに関わらず毎年お参りするように、大祓も毎回受けましょう。

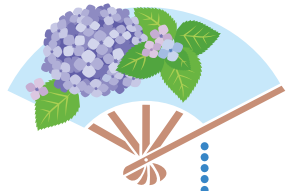
● 初穂料

一家族一、〇〇〇円以上

※三千円以上には「大祓茅の輪守り」授与
ご自由です



罪けがれを祓う



祭事のご案内〔六月～十月〕

川渡祭（へこかき祭） 六月一日・二日
2 ページを参照下さい

夏越大祓式 六月三十日

大祓とは、日々の生活の中で知らないうちに積んでしまった心身の穢れ、災厄の原因となるような罪・過ちを祓い清め、無病息災を祈る行事です。紙で出来た人形（ひとがた）に罪・穢れを移します。大祓は年に二度行われ、六月は夏越の大祓といえます。

奉納書道展 七月二十一日



表彰式

筑後一圓の小中高・一般の方々から毎年千点近い作品の応募のある奉納書道展は今年で四十三回目を迎えます。審査により選ばれた上位

五百点ほどの作品を中門透塀内、展望所に特別展示致します。奉納奉告祭で出展者の書道上達、身体健康を祈念した後、表彰式を行います。（八月中旬には久留米ゆめタウンにて展示予定）

愛宕神社夏祭 七月二十三日

愛宕神社は、火伏せ、火難除けの神として篤く信仰されています。当日は氏子崇敬者多くの参列の上火除けの祈願を致します。

献灯祭 八月一日

社殿前の一三一段の石段（本坂）の両側には毎年灯笼が奉納されます。祭典では奉納者の安全や事業繁栄を祈念します。点灯期間は八月末迄。（午後七時～十一時）

味水御井神社夏祭 八月七日

味水御井神社は水の神として信仰され、川渡祭では境内の泉にて禊が行われます。夏祭では、氏子崇敬者参列の上、地域の安全を祈念いたします。

大学稻荷神社夏祭 九月六日

多くの崇敬者参列の上、家内安全、無病息災を祈念致します。

剣道大会 九月二十三日

久留米市内の小中高校より剣士が集い、境内特設会場にて熱戦を繰り広げます。



市恵比寿社例祭 九月二十五日

石造りの夫婦恵比寿をお祀りする市恵比寿社の例祭では、参列者の商売繁盛・家内安全・夫婦円満を祈願致します。

例大祭 十月九日

高良大社の年間祭事の中で最も重要なお祭りです。「高良山くんち」と言われ親しまれています。神賑行事として獅子舞、風流などの伝統芸能や、高良山十景舞などが奉納されます。

崇敬会大祭 十月十日

高良大社崇敬会会員が日頃の神恩に感謝し、家内安全や商売繁盛などを祈念致します。

観月祭 十月十一日

「月神高良の神」といわれることから、月を愛でる祭りとして始まり、今年で二十四回目を迎えます。箏曲や太鼓、舞などが社殿及び境内特設舞台で奉納され、秋の夜長に雅なひと時が訪れます。



箏曲奉納

弓道大会 十月十三日

古式ゆかしい「百々手式」の神事が奉納され、境内に設けられた特設会場で福岡県内外より多くの方が弓の技を競います。

稻荷教秋季大祭 十月十六日

大学稻荷神社稻荷教会員、崇敬者が日々の神恩に感謝し、家内安全・商売繁盛等を祈念致します。

山川招魂社秋季大祭 十月二十日

山川招魂社は、郷土出身の英霊をお祀りする社です。当日は英霊に対し参列者各位が感謝の祈りを捧げて御霊を鎮め、お慰め申し上げます。



祭事の報告〔二月～四月〕

◆歳旦祭・初詣 一月一日

午前零時に新年を告げる太鼓が鳴り響き、多くの参拝者が神前に詰めかけました。本年は暖かく天候に恵まれ大勢の方に参拝頂き賑わいました。



◆玉替祭 一月十三日

江戸時代からの伝統行事で御祭神の御神徳の表れといわれる木製の「宝珠みくじ」授与では、各地の崇敬者の篤志もいただき、多くの参拝者で賑わいました。



◆鏡開祭 一月二十一日

古くは延命長寿、厄除けの祭事として賑わっていました。今年も小郡市吹上地区の方を始め参拝を頂き正月神前に供えた鏡餅を還暦・厄年を迎えた善男善女が割り、せんざいとしてふるまいました。



鏡開き

◆大学稻荷神社初午祭 二月四日

一年で一番大きな祭です。当日は本殿に供えた粥に生じたカビでこの年の運勢を表す占いの結果報告が発表され、多くの参拝をいただきました。

◆子の日の松神事 二月九日

御祭神の伝承に由来するお祭りです。市内本山に鎮まります本山天満宮より、上津四地区内の大人、子供達により古式ゆかしい装束姿にて松苗を運び、境内に奉納植樹されました。



松苗奉納

◆紀元祭 二月十一日

建国をしのぶ祝詞の奏上後、巫女による「浦安の舞」が奉納され皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の安泰を祈念しました。

◆祈年祭 二月十七日

古代より農耕と共に歩んできた日本人にとって五穀豊穡を祈る重要なお祭りです。農業はもとより、諸産業の生成発展をも併せ、参列者は実り多き年となるよう祈りました。

◆琴平神社春季大祭 四月十日

琴平神社の鎮座する吉見嶽は桜の名勝地として知られます。大祭が斎行され、参列者が和やかに清々しいひと時を過ごしました。

◆昭和祭 四月二十九日

昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、我が国の繁栄を祈念しました。併せて江戸千家久留米不白会によります献茶式が奉納され、境内にて、参拝者に薄茶の接待が行われました。境内に在ります久留米ツツジ原木群は満開でした



薄茶席

◆山川招魂社春季大祭 四月三十日

高良山の麓、茶白山の山川招魂社にて春季大祭が斎行されました。参列者各々が英霊に対し感謝の心を捧げました。



高良山の信仰(六) 石

神社は古くは御社殿を持たずに山、海、瀧或いは古木等が神様そのもの、又は神宿るものとして信仰されておりました。

その中に石や岩も又同様に神様が鎮まりますところとしてお祭りが行われてきたのです。

高良大社が鎮座する高良山内には今でも石の伝説があり、中でも神籠石は有名ですがその他からいくつかご紹介致します。

一、馬蹄石

二の鳥居をくぐり参道を登り始めますと左手にあるのが馬蹄石です。

石垣に囲まれた中央にへこみのある石を御覧になることが出来ます。

その昔高良の神様が神馬にお乗りになり着地したとも天空へ駆け上がったときとも伝える馬の足跡と伝えており、古くはこの石をこうごいし(神籠石)と呼び、今の神籠石は八葉石と呼んでいました。

八葉とは蓮華すなわち山内を取り囲む石の一つ一つが蓮の花弁であり高良山が蓮の中川浄土を表す仏教的な名称になります。

さて話を戻しまして、いつ名称が変更されたのかは定かではありませんが馬蹄石と改められまして神威の籠もる石として、地元御井町では、この馬蹄石の蹄の跡なるへこみに足を乗せると健脚になると云われ、運動会

の前になるとこぞって御利益を頂戴せんと児童達が足を乗せに來たそうです。皆様も高良山登山の折にあやかってみませんか。



馬蹄石

二、背比べ石

その昔神功皇后が山門(やまど)(現在・みやま市瀬高)の土蜘蛛なる田油津姫との争いに高良山へ戦勝祈願の折「この石より私の背が高ければ戦に勝つ」という神のお示しである」と仰ったところ皇后より背の高い石がズブズ

ブと低くなり、家來達の士気も盛り上がり喜び勇んで戦に向かわれたと伝える石で馬蹄石の横にあります。



背比べ石

三、陰陽石

一つの頃より鎮座は不明ですが男女一対を表す真におおらかな自然石であります。

日本各地に太古より信仰の対象として親しまれた陰陽石も明治時代には取り払われたりと受難の時代がありました。今でも子宝や下半身の病気に或いは家庭円満に御利益があるとして、祈りを捧げる方が多くいらっしゃいます。



陰陽石

四、岩不動

山内愛宕神社の参道を麓の宗崎に下る途中にあります。

巨大な一枚岩に地蔵菩薩を中心に不動明王、毘沙門天の三尊を表す種字(仏を表す梵字)が彫られています。

作者建立も不明ですが、愛宕神社は古くは愛宕將軍地蔵と称して愛宕神の本当のお姿とされた地蔵菩薩が長くお祀りされてきました。その地蔵菩薩に天台宗でみられる不動明王、毘沙門天を脇士とする三尊を表しています。本来であればお地蔵様が主尊でありますから「岩地蔵」と呼ぶのがただししいのでしようが「岩不動」と呼ばれています。清水が湧き出ており、常に清掃され香華の絶えない霊場です。



岩不動

権禰宜 松本 長人

高良大社崇敬会だより

「平成二十六年度高良大社崇敬会総会開催される」

去る三月四日(火)ホテルマリタール創世に於いて平成二十六年度高良大社崇敬会総会を開催いたしました。

伊勢神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き、井手英会長挨拶のあと議事進行となりました。平成二十五年事業報告・収支決算の承認、また平成二十六年度の事業計画とそれに伴う予算案が上程され、そして役員改選の年度にあたり理事及び監査役選任の承認が為されました。

続いて宮崎県高千穂神社宮司後藤俊彦先生による「伝統文化とわが国の再生」と題しての講演が行われ、会員一同拝聴させて頂きました。



講演 後藤俊彦先生

【事業委員会案件】

- 一、高良山マップに基づく看板
- 二、本坂献灯灯柱修繕・延長の補助
- 三、第四回企画旅行(伊勢神宮)
- 四、書道展・写真展への協賛
- 五、久留米つつじ原木群手入れ

【平成二十六年事業計画】

【総務委員会案件】

- 一、役員会・総会の開催
- 二、新規会員入会勧奨及び増強
- 三、高良山古代史講座継続開催
- 四、社報「たまたれ」を送付
- 五、崇敬会大祭の斎行(おくんち)



本坂 献灯灯柱の延長計画

《新規就任理事・監査役》

理事

- 林 忠範氏(総務委員)

十八防災システム取締役会長

- 中島田晴世氏(総務委員)

中島田正徳責任役員夫人

監査役

- 田中聖和氏

田中聖和税理士事務所所長
(任期平成二十八年十二月末日迄)

高良大社崇敬会の詳細な活動や入会方法は高良大社公式ホームページでご覧いただけます。

多数のご入会をお待ちしております。一緒に高良山を盛り上げていきましょう。

第四回

企画伊勢旅行実施される

高良大社崇敬会の本年度事業計画のひとつである第四回企画旅行として、去る二月十八日と十九日の一泊二日で伊勢神宮参拝旅行を実施いたしました。

井手英会長を団長として、高良大社竹間宗麿宮司の同道により総勢七十七名の参加を得て昨秋二十年に一度の式年遷宮が斎行され、檜の芳しき新宮を御垣内参拝させて頂き、一同清々しい気持ちで志摩「合歡の郷」に投宿。楽しい懇親会でお互い交流を深めて久留米の地に無事に帰って参りました。

企画旅行は毎年開催しており、

今回は伊勢神宮でしたが、来年は日帰りの企画旅行を検討中ですので、引き続き多数のご参加をお待ち申し上げます。

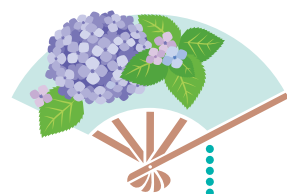


(参詣バス1号車)



(参詣バス2号車)

宇治橋にて



兼務社紹介

印鑰神社

(いんやくじんじゃ)

久留米市御井町宗崎

文化八年(一八一一年)五月宗崎地区の住人宮原彦兵衛寄進により菅原道真公が印鑰神社に合祀された。

例祭日

七月十七日 夏祭り
十二月十八日 冬祭り

由緒

印鑰神社の「印」は国印、「鑰」は国倉の鍵を指すが、ここ宗崎地区に鎮座する印鑰神社は、はじめ宗崎大宮司(高良大社宮司)邸に祀られたことから、高良山を盗賊等から護るために建立された神社であり、高良山の「宝」と「神殿」の鍵の意であると伝わる。

また、伝説では三五〇年生きたとされることから厄除け長寿の神として広く信仰されている。

御祭神
武内宿禰(たけのうちすくね)公
大和朝廷で活躍した歴史的人物で特に「熊蘇」や「朝鮮遠征」などで朝廷を助けて功労があったと伝えられている。

合祀
菅原道真(すがわらみちざね)公
平安朝の学者、政治家で醍醐天皇(八九七年)の御時、右大臣となるも、左大臣藤原時平の讒言で、太宰府へ流され僅か三年で亡くなる。(五九歳)



印鑰神社

第三回 高良山写真展【募集要項】

主催

高良山写真展実行委員会

後援

・高良大社・高良大社崇敬会
・西日本新聞社

募集

九月十五日(月・敬老の日)まで
郵送可能(当日消印有効)
宛先

〒839-0851

福岡県久留米市御井町一番地
高良大社社務所内
高良山写真展実行委員会

審査

主催者が委嘱する審査員により行います

展示

十月十八日(土)～十一月二十四日(月) 中門透堀内展示場
(引き続き久留米ゆめタウンにて展示予定)

表彰

十一月二十三日(日・勤労感謝の日)
高良大社新嘗祭に引続き奉告及び表彰を行います。

- 高良大社宮司賞
- 高良大社崇敬会会長賞
- 西日本新聞社賞
- 福岡県知事賞
- 福岡県議会議長賞
- 久留米市長賞
- 久留米市議会議長賞
- 久留米ゆめタウン賞
- 高良大社賞 その他褒賞

要綱

- 応募点数は一人3点までとします(サイズA4判限定)
- 出品料は無料です
- その他詳細は高良大社公式ホームページを参照ください



第2回 崇敬会会長賞「雪の高良大社」



第2回 宮司賞「輪くぐり神事」



高良山通信

「平成の大造営」奉賛会設立の準備始まる

高良大社では明平成二十七年（仮称）「平成の大造営」として四十年ぶりに国の重要文化財である御社殿（本殿・幣殿・拝殿）の御屋根葺き替え、中門・透塀の塗り替え、併せて斎館・授与所の改築を計画し、現在物心共々の支



援組織としての「奉賛会」の設立に向けての諸準備を進めております。

日頃、御崇敬を賜ります神社関係者また崇敬者各位に於かれましては、この旨御報告申し上げますと共に、向後更めて御協力を賜り度御願い申し上げます。存じますが、何卒宜敷御高配に與りますようお願い申し上げます。社報の紙面をお借りして御報告傍御挨拶を申し上げます。

尚、この（仮称）「平成の大造営」の概要計画や途中報告は随時、また「社報たまたれ」バックナンバーにつきましても、高良大社公式ホームページで御覧戴けますので是非御利用下さい。



境内のたたまい

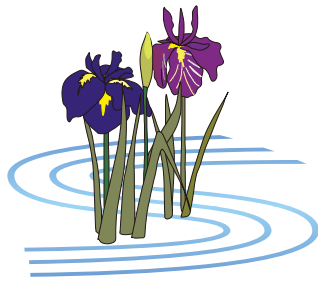
九州国立博物館「国宝大神社展」

日帰り研修会実施される

去る二月二十三日（日）半日ではありましたが、高良大社の主催にて九州国立博物館で開催されていた「国宝大神社展」を四十三名の参加を得て、見学会を実施致しました。

この展覧会は昨年の第六十二回神宮式年遷宮を機として、神社本庁をはじめ全国神社の協力により、東京国立博物館に引き続き、一月十五日から三月九日まで開催されていたものです。

神々の姿である「御神像」や「御神宝」の数々を、またと無いこの機会に一同真剣な面持ちで拝観しておりました。



篤志奉納

神恩感謝の真心により、ご篤志奉納がございました。

福岡市 吉村 宮子 様

鎮守の杜

今回、崇敬会旅行伊勢神宮参拝へ行かせていただきました。始めての伊勢神宮の道中では、バスガイドさんの伊勢にまつわる話を聞きました。下調べはしていましたが、私には知らないことが多く、とても勉強になりました。

内宮は、太くまっすぐに上へ上へと伸びる太い木々があり、とても美しく神秘的でした。神楽はなんともいえない迫力と優雅さに引き込まれ入ってしまいました。そして、崇敬会の方のお話する機会は、普段無いので嬉しく、とても貴重な時間でした。

二月ということもあり、訪れたときは少し雪が残り肌寒く感じました。私は御正宮までの玉砂利を一步一步ふみしめ歩いていきました。途中、神様に見られているような気がして、背筋が伸び、少なからぬ緊張感と共に参拝をさせていただきました。

私は今回参拝へ行かせて戴くことで、自分を振り返りました。せんぐう館でのお話、その時代の人々が、伝統と文化を引き継いできた。だから、式年遷宮がおこなれ、これからも変わらない。毎日の繰り返し、その日々を大事に自分にしていくだろうか。変わらない事を続ける事の大事さを知り、教えられました。

今回神宮参拝へ一緒に行かせて戴き、お宮に奉仕の気持ちの日々忘れず頑張っていきたいと思えます。〈中島〉

「たまたれ」 通巻二十八号

平成二十六年六月一日発行

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地

電話〇九四二一四三二四八九三

FAX〇九四二一四三二四九三六